

脱兎のごとく

日産自動車前史

明治大正を通し、日本の道を走る自動車は、フォード、GM（ゼネラルモーターズ）といった外車ばかりでした。
この時代背景の中、鮎川義介をはじめとする人達は、さまざまな思いをこめて自動車を作り始め、今日の日本の自動車産業の礎を築きました。



明治44年（1911）快進社自働車工場設立

橋本増治郎が中心となって設立した快進社は、自動車の国産化にのりだし、国内自動車産業のさきがけとなりました。



橋本増治郎

明治43年（1910）戸畑鑄物（株）設立

鮎川義介は山口県に生まれ、東京帝国大学（現東京大学）を卒業しました。義介は渡米中に、大学卒業の学歴を隠して職工として働き、鑄造の技術を会得しました。帰国後義介は、戸畑鑄物を設立しました。



鮎川義介



ダットサンフェートン12型



鮎川義介米軍留学時代

大正3年（1914）ダット自動車完成

快進社に出資した田、青山、竹内の頭文字を取って名付けられたダット自動車（脱兎号）が完成し、この年に開催された大正博覧会に出品され、銅牌を得ました。



田健治郎



青山禄郎



竹内明太郎



ダット自動車オフライン式

大正7年（1918）

（株）快進社として新発足

快進社自働車工場は、資本金60万円、建坪600坪、従業員60人の株式会社となりました。翌年には、日本で最初とされている単塊鑄造4気筒エンジンをのせたダット41型の乗用車を完成し、発売しました。

大正8年（1919）

実用自動車製造（株）設立

米技師ウィリアム・R・ゴルハムは三輪自動車を開発しました。このゴルハム式三輪自動車は、新事業を模索していた大阪の事業家の注目を集め、企業化を目的として大阪に実用自動車製造が設立されました。機械設備、自動車部品、材料などは米国に発注



して輸入した
もので、当時
としては近代
的な自動車工
場でした。



ゴルハム式三輪車を祝う
人々。右端がゴルハム氏

大正 14年 (1925)
(合資) ダット自動車商会設立

快進社は経営不振から、販売を強化するためにダット自動車商会を設立しました。

大正 15年 (1926)
ダット自動車製造 (株) 設立

実用自動車製造がダット自動車製造となり、ダット自動車商会と合併しました。

昭和 6年 (1931)
ダット自動車製造 (株)
戸畑鑄物 (株) の傘下に

自動車部品を製造していた戸畑鑄物は、自動車工業への進出を企画し、ダット自動車製造を傘下に迎え入れました。

合併

傘下に

DAT SUN

昭和7年 (1932) ダットサン誕生

昭和6年に戸畑鑄物の傘下となったダット自動車製造は、495ccの小型乗用車生産1号車を完成し、ダットソンと名付け、翌昭和7年にダットサンと車名を変えました。ダットソンとはDAT (田、青山、竹内) の息子 (SON) の意味を持ち、ソンは損に繋がることから、太陽 (SUN) のサンに変えました。

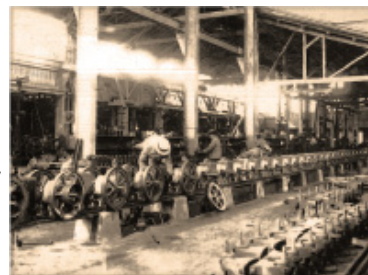


昭和8年 (1933) 戸畑鑄物 (株) 自動車部を創設

戸畑鑄物は昭和8年3月に自動車部を創設し、本格的な自動車生産に向けて動きだしました。この年の10月には、新子安の湾岸埋立地 (現横浜工場敷地) 2万余坪の土地を横浜市から買い取りました。

昭和8年 (1933)
自動車製造 (株) 横浜に設立

鮎川義介が設立した持ち株会社、日本産業と戸畑鑄物で出資して、12月26日に自動車製造を設立しました。



戸畑鑄物工場内部

昭和9年 (1934)
日産自動車 (株) に社名変更

6月に行われた株主総会において日本産業の100%出資となり、社名も日産自動車株式会社と変更しました。